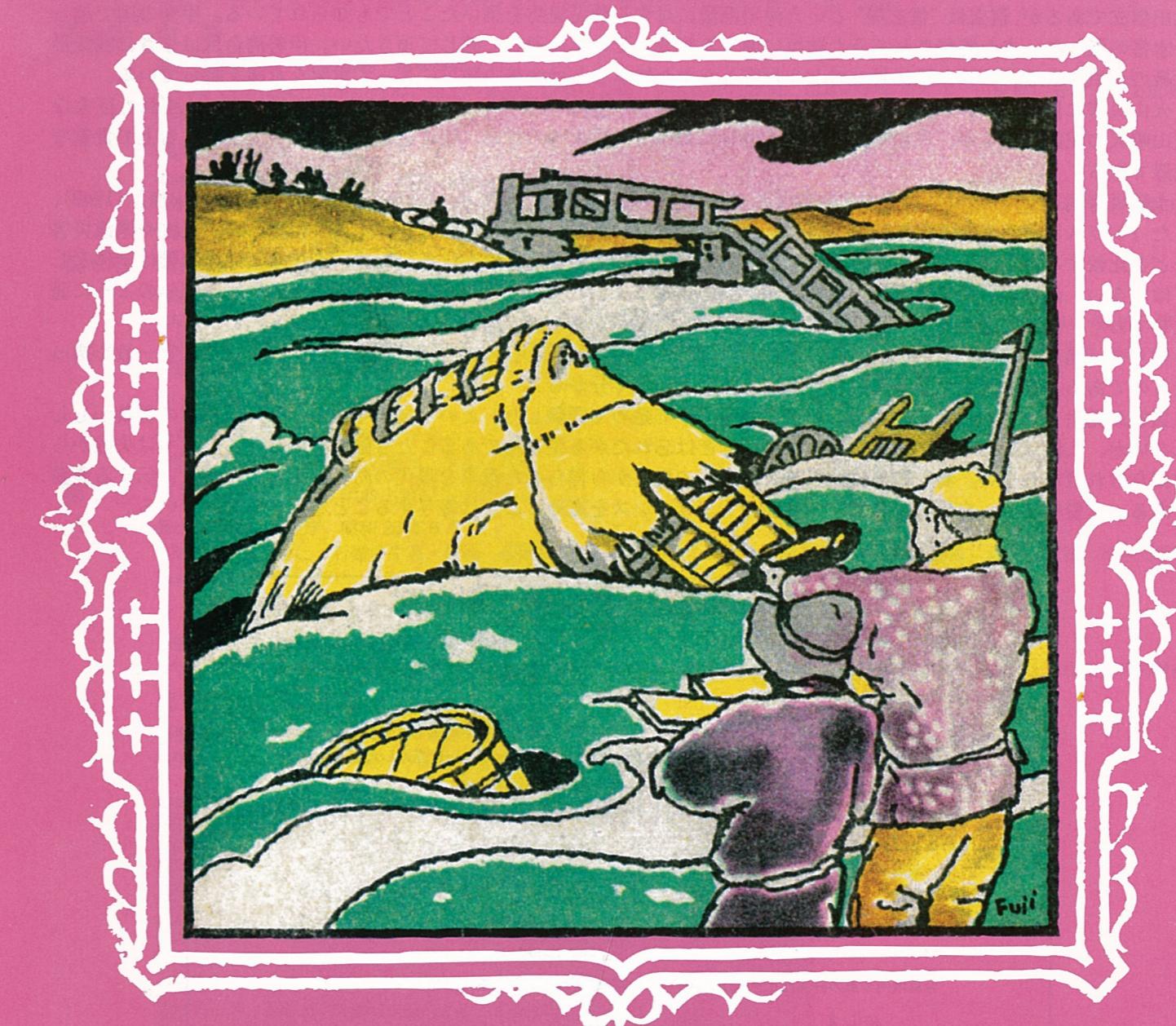


台風・水害、火山災害、土砂災害など自然災害資料を集成。

日本自然災害資料集

全7巻 深川 良一 編・解説



クレス出版

『日本自然災害資料集』の刊行に寄せて

立命館大学理工学部教授

立命館大学総合科学技術研究機構・防災フロンティア研究センター長 深川良一

「災害は忘れた頃にやってくる」と言ったのは寺田寅彦であるが、最近は忘れる間もなく繰り返し大規模な自然災害に襲われるようになってきた。2011年は東日本大震災の発生で長く記憶される年になり、また西日本では阪神淡路大震災の前後より地震の活発期に入り、近い将来の南海トラフ巨大地震の発生が確実視されている。さらに、台風・豪雨災害に関しては、地球温暖化の影響か、巨大な台風や異常な豪雨の発生が相次いでいる。火山の噴火も頻発している。2014年の御嶽山噴火における63名の死者・行方不明者という災害が記憶に新しいが、その後も各地で火山噴火が続き、全国的に関心が高まっている。

以上のような背景の元、本資料集は自然災害全般に関して編集されたものである。日本災害資料集では、すでに水害編、地震編、火災編および気象災害編が刊行されているが、これらに採録されていないものを新たに加えている。初めて採録された分野は火山災害および土砂災害関連である。

まず、台風・水害関連では、『山梨県水害史』(1911)、『伊勢湾台風災害誌』(1961)を復刻、採録した。山梨といえば武将・武田信玄であるが、信玄は“信玄堤”という河川氾濫に対する防災堤防を築いたことでも知られている。甲斐の国で起った水害の激しさ、また蓄積してきた防災に関する叡智をこの本を通して感じて頂きたい。伊勢湾台風はまさに戦後最大級の台風である。この台風に対してどう対応したのか知ることは今後の防災にとって重要な意味を持っている。

火山災害に関しては、『桜島大正噴火誌』(1927)および『駒ヶ岳爆発災害誌』(1937)を採録した。いずれも巨大な火山噴火の記録であるが、火山噴火の相次ぐ今日において、噴火への対応、特に避難誘導、救援等を考える上で貴重な記録である。

土砂災害関連では、地滑り研究の先駆者として知られる中村慶三郎の著した『山崩』(1934)、『地氷及び山崩』(1949)、また『シラス災害の実態と対策』(1951)および『災害の研究』(1951)を採録した。土砂災害は、地震災害や津波災害などと比較すると1回あたりの犠牲者数は少ないものの、発生回数がはるかに多いため、市民生活への影響は全体としては大きい。最近でも数十名程度の犠牲者が1つの豪雨によってもたらされるような巨大な土砂災害が毎年のように発生しており、土砂災害の歴史を知り、適切に対応することが求められている。

残りの『諸災』(1935)、『天災と地変』(1949)、および『鹿児島県災異誌』(1952)は、いずれも自然災害一般を扱ったものである。日本列島はまさに災害列島であることが良く分かる。

災害が発生したときによく聞かれるのが「生涯の中で始めて経験した」という言葉である。それは真実の言葉かもしれないが、人間は忘れやすい、かつ都合の悪いことは忘れたがる生き物であることも強く意識させる。我々は失敗から学ばなければならぬ。特に防災に関わる者は過去の災害から得られた教訓を現代の防災に生かし、後世に伝える義務がある。本資料集が、自然災害に対する社会のレジリエンスを高めることに寄与することを心より願っている。

第4巻 伊勢湾台風災害誌

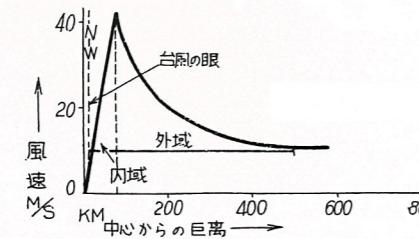
第一節 台風の解説

第一項 台風の発生、移動上陸など

台風は毎年、日本にやってくる、南方洋上に発生する台風の数は多い年では40個以上、少ない年でも20個ぐらいで、平均すると一年に27個になる。発生後、しだいに発達しながら、ふつう毎時20kmぐらいの速度で西、または北西に進み、全体の6~7割は、その後、毎時20~30kmの速度におちるが、転向後は衰弱しながら速度は速くなり、日本を襲うころは、毎時40~50kmになるのがふつうである。日本に上陸する台風の数は、多い年で8個、少ない年で2個ぐらいで、平均して、年に4~5個で全体の15%である。

第二項 台風による暴風

台風域内の風の分布はモデル的に書けば、次図のようであり、最大風速は中心から、40~50kmのところにあらわれ、台風の中心気圧が低いほど域内の暴風も強いのがふつうである。もちろん、個々の台風は、その発生条件、発達段階などにより風速分布はいろいろで、ことに、上陸後は分布が乱れてくる。また、一般に進行方向の右半面で風速



●日本自然災害資料集 全7巻

第1巻 山梨県水害史

●早川文太郎・須田宇十共著 山梨県水害史発行所 明治44年12月

【内容】建国、現勢地理、二大河流遷史、信玄以前水害史、信玄時代水害史、諸侯時代水害史、幕府直轄時代水害史、明治三十九年間水害史、明治四十年水害史、明治四十三年水害史

第2巻 桜島大正噴火誌

●鹿児島県 田代運平 昭和2年8月

【内容】桜島の歴史、大正三年の大噴火、大正三年大噴火の影響と被害、噴火被害に対する救済上の施設、地形地盤の変動及雜記

第3巻 駒ヶ岳爆発災害誌

●財団法人北海道社会事業協会 昭和12年6月

【内容】駒ヶ岳に就て、爆発並に災害の概況、御下賜金の伝達領賜、救護組織、災害応急措置、義捐金品の募集及処分、復旧復興諸施設、公私諸団体の救援活動、災害余録

第4巻 伊勢湾台風災害誌

●三重県 昭和36年6月

【内容】伊勢湾台風の状況、被害の原因とその特性、被害の状況、緊急対策、伊勢湾台風の災害に関する立法措置、応急措置、功労者に対する表彰および感謝状、復興に対する財政、被害者の記録およびその他の記録

第5巻 山崩

●中村慶三郎著 岩波書店 昭和9年7月

【内容】山崩概説（山崩の地形、崩土の移動、山崩の分類、山崩の直接原因、山崩の素質的原因、山崩地に於ける人文地理、山崩の予察及び防止）、山崩の地域的記載

地氷及び山崩

●中村慶三郎著 岩波書店 昭和24年8月

【内容】地氷・山崩の定義及び分類、地氷・山崩の形態及び運動、地氷・山崩の反覆性、地氷・山崩の地形的考察、地氷・山崩の誘因、地氷・山崩の素因、地氷・山崩と人間生活、地氷・山崩と土地割替制度、地氷・山崩の予察及び防止

第6巻 防災科学 諸災

●岩波書店 昭和10年10月

【内容】災害時の心理（速水滉・天野利武）、災害地変による負傷者の救急処置（茂木藏之助）、山の危険と遭難の防止（松方三郎）、交通災害（吉江勝保）、化学兵器（丹羽利男）、化学工場、化学実験室等に於ける危険物質（望月喜三雄）、鉱山の災害（山口六平）、工場傷害防止（武田晴爾）、工場火災（色川三男）

天災と地変

●高崎寿著 世界社 昭和24年6月

【内容】自然の災害、災害の歴史、災害の対策

第7巻 災害の研究（1950年の山地灾害を中心として）

●小出博著 林野庁 昭和26年6月

【内容】山崩、地氷、石礫の生産・供給・堆積について—いわゆる流出土砂量の問題一、砂防堰堤に対する批判、貯水式堰堤における堆砂

シラス災害の実態とその対策 ——鹿児島、宮崎、両県下に於ける—

●経済安定本部資源調査会 昭和26年6月

【内容】シラス地域の被害概況、シラス地域の一般概況、シラス地域の侵蝕と崩壊、シラス地域の災害対策、土地保全対策の課題
鹿児島県災異誌

●鹿児島地方気象台 昭和27年4月

【内容】一般気象の部、地震、火山の部、台風資料の部、気象値の部



日本自然災害資料集 全7巻 A5判 / 上製函入

深川 良一 編・解説

第1巻 山梨県水害史	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-917-3
第2巻 桜島大正噴火誌	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-918-0
第3巻 駒ヶ岳爆発災害誌	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-919-7
第4巻 伊勢湾台風災害誌	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-920-3
第5巻 山崩、地氷及び山崩	定価 11,000円 (税別) ISBN978-4-87733-921-0
第6巻 防災科学 諸災、天災と地変	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-922-7
第7巻 災害の研究、シラス災害の実態とその対策、鹿児島県災異誌	定価 11,000円 (税別) ISBN978-4-87733-923-4

平成28年1月末日刊行 摘定価 92,000円 (税別) ISBN978-4-87733-924-1 (セット)

クレス出版好評既刊書

日本風水害誌集 全4巻 吉越 昭久 編・解説

第一巻 昭和二十二年九月 埼玉県水害誌	定価 26,000円 (税別) ISBN978-4-87733-857-2
第二巻 大阪市風水害誌	定価 30,000円 (税別) ISBN978-4-87733-858-9
第三巻 昭和九年 岡山県風水害誌	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-859-6
第四巻 昭和二十八年六月 福岡県水害誌	定価 22,000円 (税別) ISBN978-4-87733-860-2 摘要 92,000円 (税別) ISBN978-4-87733-861-9 (セット)

日本災害資料集 全31巻

●水害編 全7巻 吉越昭久 編・解説

第1巻 水災と雪災、水害の日本	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-683-7
第2巻 大正八年 福山水害誌	定価 8,000円 (税別) ISBN978-4-87733-684-4
第3巻 昭和十年 群馬県風水害誌	定価 15,000円 (税別) ISBN978-4-87733-685-1
第4巻 水害の総合的研究	定価 11,000円 (税別) ISBN978-4-87733-686-8
第5巻 北上川流域水害実態調査	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-687-5
第6巻 カスリン台風の研究	定価 19,000円 (税別) ISBN978-4-87733-688-2
第7巻 昭和二十二年 東京都水災誌	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-689-9 摘要 95,000円 (税別) ISBN978-4-87733-690-5 (セット)

●地震編 全12巻 伊津野和行 編・解説

第1巻 昭和五年十一月二十六日 北伊豆地震報告	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-691-2
第2巻 三陸大地震史	定価 6,000円 (税別) ISBN978-4-87733-692-9
第3巻 南海大地震誌	定価 25,000円 (税別) ISBN978-4-87733-693-6
第4巻 福井震災誌	定価 21,000円 (税別) ISBN978-4-87733-694-3
第5巻 北但震災誌、昭和十九年二月七日 東南海大地震調査概報	定価 16,000円 (税別) ISBN978-4-87733-695-0
第6巻 十勝沖地震調査報告 地震篇	定価 13,000円 (税別) ISBN978-4-87733-696-7 第一回全6巻 摘定価 95,000円 (税別) ISBN978-4-87733-697-4 (セット)
第7巻 震災 防災科学 (2)	定価 10,000円 (税別) ISBN978-4-87733-724-7
第8巻 東京大正震災誌	定価 8,000円 (税別) ISBN978-4-87733-725-4
第9巻 丹後地震誌	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-726-1
第10巻 昭和八年三月三日 三陸沖強度及津浪報告	定価 10,000円 (税別) ISBN978-4-87733-727-8
第11巻 福井地震誌	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-728-5
第12巻 十勝沖地震調査報告 その二	定価 30,000円 (税別) ISBN978-4-87733-729-2 第二回全6巻 摘定価 86,000円 (税別) ISBN978-4-87733-730-8 (セット)

●火災編 全7巻 田中峰義 編・解説

第1巻 火災、白木屋の大火、明日の都市	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-758-2
第2巻 大正 大震災大火災、大地震による大火災、関東大震災と帝都復興事業	定価 15,000円 (税別) ISBN978-4-87733-759-9
第3巻 函館大火史 附消防沿革史	定価 10,000円 (税別) ISBN978-4-87733-760-5
第4巻 鳥取市大火災誌 (復興篇)	定価 14,000円 (税別) ISBN978-4-87733-761-2
第5巻 震災予防調査会報告 第百号 (戊)	定価 13,000円 (税別) ISBN978-4-87733-762-9
第6巻 都市不燃化運動史	定価 16,000円 (税別) ISBN978-4-87733-763-6
第7巻 戦災復興と全国戦災都市連盟の歩み	定価 13,000円 (税別) ISBN978-4-87733-764-3 摘要 95,000円 (税別) ISBN978-4-87733-765-0 (セット)

●気象災害編 全5巻 吉越昭久 編・解説

第1巻 風災、凶作	定価 15,000円 (税別) ISBN978-4-87733-780-3
第2巻 秘密気象報告 第1巻	定価 16,000円 (税別) ISBN978-4-87733-781-0
第3巻 秘密気象報告 第2巻	定価 21,000円 (税別) ISBN978-4-87733-782-7
第4巻 秘密気象報告 第3巻、第4巻	定価 22,000円 (税別) ISBN978-4-87733-783-4
第5巻 秘密気象報告 第6巻	定価 15,000円 (税別) ISBN978-4-87733-784-1 摘要 89,000円 (税別) ISBN978-4-87733-785-8 (セット)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
(03)3808-1821 (03)3808-1822 http://www.kress-jp.com/

●書店名



株式会社クレス出版